



これから私たちがつくりようとしている大学は何をすることなのか？

という問いに対して、「ともに未来をつくる大学だ」

という思いを込めて「Co-Innovation University」(仮称)

という名前にしました。

「ともに」という意味である「Co」を強調して、

略称は「CoIU」(コーアイユー)としました。

【共創学部 / 地域共創学科】定員120名

基幹学問は経済学 / 経営学です



世界的建築家が設計する未来のキャンパス

岐阜県飛騨市に新設されるCoIU(仮称)のキャンパスは、

世界的建築家・藤本壮介氏による設計。

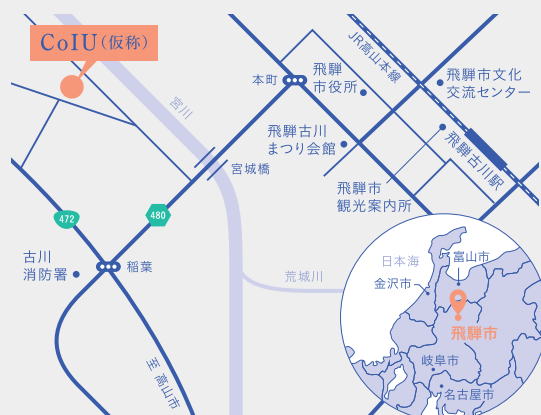
コンセプトは、「その先」へと開かれた場所。

丘のようななだらかな屋根に登って景色を眺めることもできます。



キャンパスの中央に広がる半分に割ったすり鉢状の大屋根は、内側に向かって地域に開き、学生や教員、市民の方々との親密な一体感を感じられます。外側に向かっては、飛騨の美しい山並みや大空へとつながり、その先に日本各地や世界を目指す希望と未来を予感させるでしょう。飛騨の地域特性と呼应しながら、CoIU(仮称)のビジョンとも共鳴する建築を目指しました。

建築家 / 藤本壮介氏



富山から列車で……75分
名古屋から列車で……160分

大阪から列車で……210分
東京から列車で……260分

飛騨市について

飛騨市は、3,000mを超える北アルプスや飛騨山脈などの山々に囲まれ、総面積792.31km²の約93%を森林が占める、豊かな自然に恵まれたまちです。また、ユネスコ無形文化遺産に登録された飛騨古川祭、小柴昌俊東京大学特別栄誉教授のノーベル物理学賞受賞に続き、梶田隆章東京大学宇宙線研究所長がノーベル物理学賞を受賞されることにつながったニュートリノ観測施設「スーパーカミオカンデ」をはじめとした宇宙物理学研究施設、大ヒットを記録した映画「君の名は。」でイメージとして用いられている田舎町の風景など、多彩で個性豊かな地域資源が数多く存在します。



〈学生納付金〉

※金額は変更する可能性がございます
※給付金・貸与型奨学金制度の導入を検討中

入学金	200,000円
授業料	1,080,000円
施設費ほか	350,000円

〈アドミッションポリシー〉

- 1 高校卒業までにまでに学習した知識を備えた基礎学力を十分に備えている
- 2 他者の意見を理解し、自己の考えを口頭又は文書で表現できる
- 3 知的好奇心があり、学び続ける意欲が高い
- 4 地域の活性化に向けて積極的に行動ができる
- 5 大学の理念への共感、地域や社会の課題に関心がある



地域と世界をつなぐ未来を共創する。

Co-Innovation University(仮称)

学長候補

宮田 裕章

Hiroaki Miyata

なぜCoIU(仮称)が今の時代に必要なのか？

今世界は大きな変化の中にあります。人類史における文明の転換点は農業革命、産業革命、情報革命といわれていますが、数十年続いてきた情報革命による変化はデータ、AIなどのデジタルの力で本番を迎えています。ここからは産業構造だけでなく、社会のあり方が根本から変わり、世界はデジタルを前提に、つながりながら未来を創ることが必須になるでしょう。CoIU(仮称)が提示する共創学は、新しい時代において生きること、働くこと、学ぶことの中核になる概念を捉える視座です。その背景の一つには、戦後の日本の教育が時代に合わなくなっているという問題提起もあります。これは特に探究シフトが進む初等中等教育で多く起こっている議論です。では、時代とズレているものは何なのか。

その一つは大学入試とそれに向けた受験勉強ではないでしょうか。貴重な10代の膨大な時間を外部のネットワークを遮断して知識を習得する時間に費やし、知識の再生産のスピードを軸に選抜する。大量消費大量生産社会においては一定の意義のある能力も、今日の社会課題の解決においては限定的なものになってきました。多様な人々とつながって課題を発見し、自分の持っていない能力を借りながらイノベーションのアイデアを作っていく学びと実践がこれからは必要となるでしょう。また、情報化の時代において知識は更新されていくもの。今日の知識を正確に記憶することよりも、アップデートされ続ける知識を捉える視座が重要で、課題そのものも自分で考えていく必要があります。

これからの時代には人と社会をつなぐプロジェクトの中で多様な関係者と地域の未来を共に創る、共創的・実践的な学びを軸にした学びが必要です。私たちCoIU(仮称)はそうした場を共創していきます。

※構想中の情報のため、実際と異なる場合があります。

お問い合わせ

〒509-4225 岐阜県飛騨市古川町金森町2-23

プライムレジデンス飛騨古川1001号

TEL 0577-57-8121 / FAX 0577-57-8123



Facebook



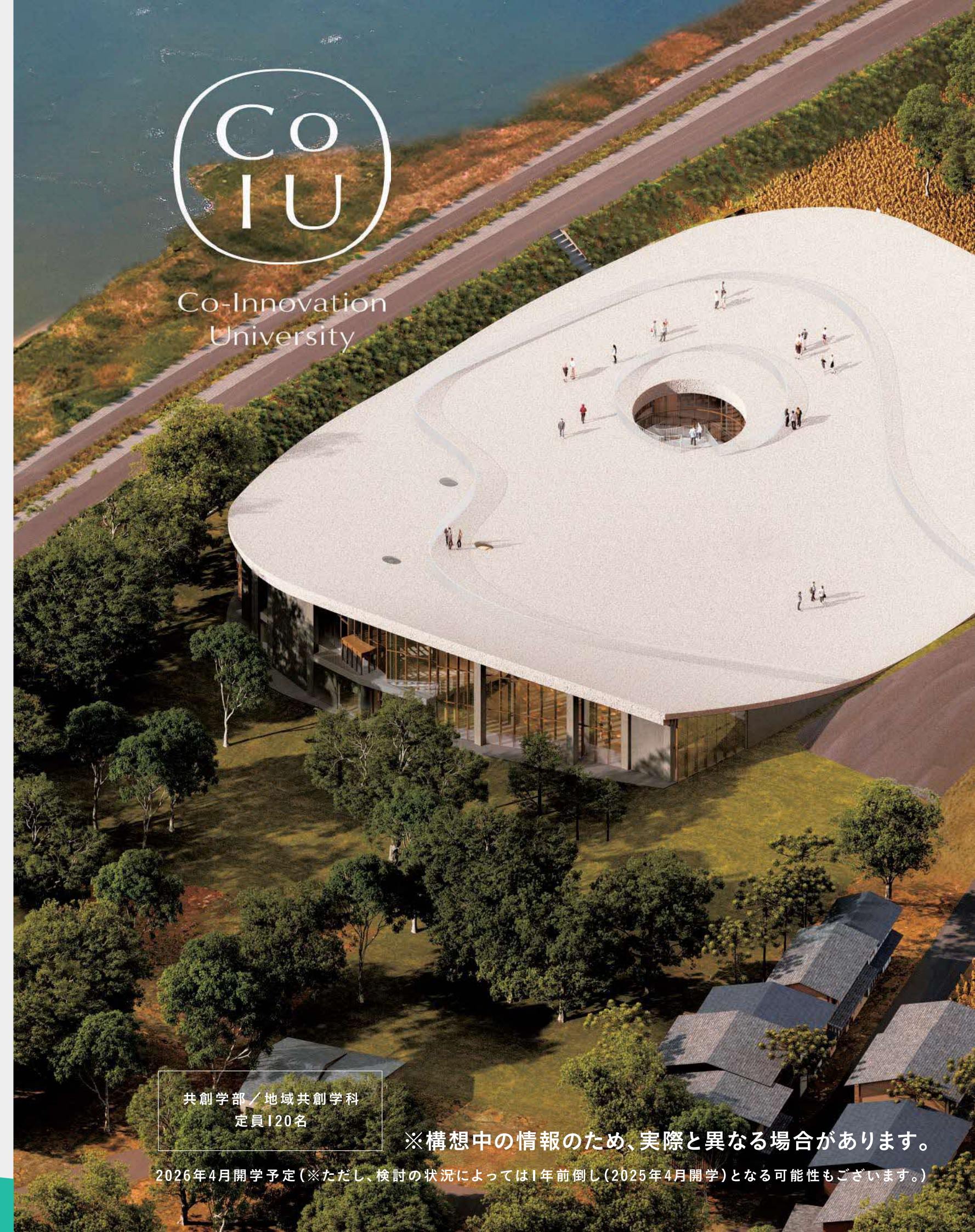
Instagram



Twitter



大学HP



Co-Innovation University

共創学部 / 地域共創学科
定員120名

※構想中の情報のため、実際と異なる場合があります。

2026年4月開学予定(※ただし、検討の状況によっては1年前倒し(2025年4月開学)となる可能性もございます。)

※構想中の情報のため、実際と異なる場合があります。

共創学とは

共創学とは持続可能な未来と人々の多様な豊かさの調和の中で、

新たな社会を生み出す学際的なアプローチです。

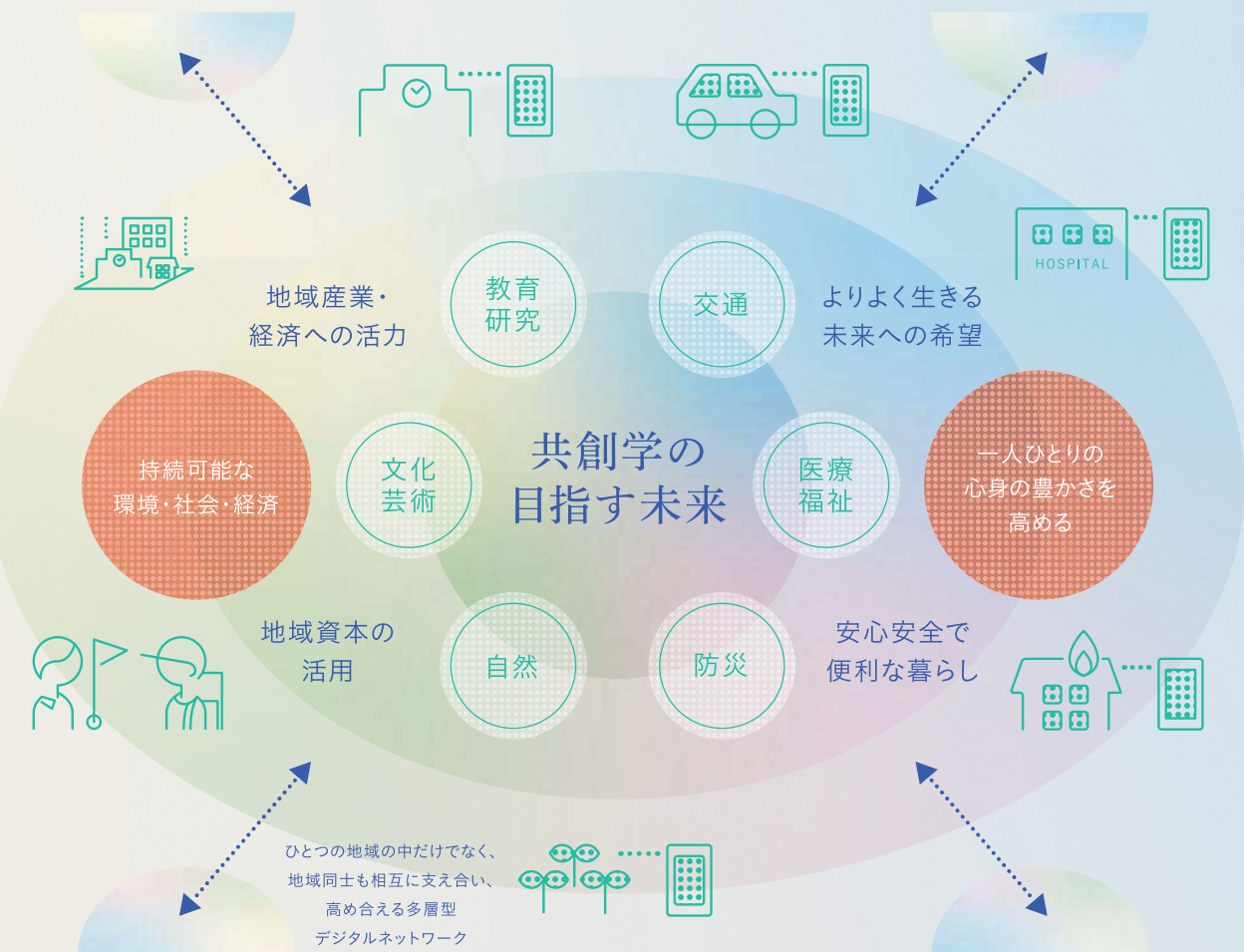
多様な関係者との対話を通して理論を構築し、

また一人称として取り組む実践の中で新たな価値の創出に取り組みます。

理論と実践の一連のプロセスを学問体系として積み上げていく共創学の中で、

経済、経営、エネルギー、環境、モビリティや健康・ウェルビーイング、

アートやデザインなど多様な領域連携を行います。



※構想中の情報のため、実際と異なる場合があります。

CoIU(仮称)の学び

共創の実現に向けて、「理論」・「対話」・「実践」を往還する

プロセスを通じて、地域や立場を越境し、

課題解決および社会変革を実行する力を備えた人材を養成

これからの時代に合った 学びを提供！

1年間、飛騨にある本キャンパスで学んだ後は、飛騨だけではなく全国の連携地域で一人ひとりが学びたいテーマに合わせて、地域の現場で学び、一人ひとりの問題意識をより深めていくことで自分事とできるようになります。実際に地域のプレイヤーと関わり、語り、実践することで、リアルな地域の課題や企業の課題感に触れ、社会で活躍するための様々な力を育みます。

CoIU(仮称)が想定している学問分野

基幹学問：経済学／経営学

周辺領域：経営、地域産業、IT/デジタル、防災、社会基盤、サステナブル(エネルギー/脱炭素)、行政、政治、社会学、医療、健康、福祉、アート、文化、デザイン等

1年次

キャンパスのある飛騨エリアの中で
理論／対話／実践の基礎を学びます。

理論：飛騨エリアの課題に触れながら経済学／経営学を中心に
周辺の専門領域についても学んでいきます。

対話：ファシリテーション／デザイン思考などの共創に向けた基礎力を学びます。

実践：2年次のボンディングシップに向けた準備を進めます。

2年次

ボンディングシップを中心とした
実践的な学びを行います。

理論／対話：オンラインの授業でボンディングシップの内容に合わせた学びを進めます。

実践：全国の連携地域*からボンディングシップ先を選び、
現地の企業や自治体の中で実践的な学びを行います。

※連携地域は今後変更の可能性あります。

3～4年次

現地の実践経験とこれまでの学びを活かし
自ら立案する等、主体的にプロジェクトへ参加します。

学びを通じて具体化した自分だけのテーマや関心事を追求し、実践・研究を深めていきます。

理論

CoIU(仮称)が共創のテーマと考える分野。課題解決ができる人材になるために必要な分野を中心に学習する。

対話

地域の暮らしや自然・文化について、地域の人との対話を通じて体験する。対話型の講義を通じてヒューマンスキルを身につける。

実践

地域・テーマを選んでプロジェクトに参加できる実践型インターンシップ。自分が取り組むべき地域課題の発見につながる。(ボンディングシップ)

オンライン授業を最大限活用！

「対面授業よりも質問がしやすい」「後から繰り返し視聴でき、理解が深まる」といった良さがあります。全国の連携地域でボンディングシップ中にもオンラインで参加することができる環境を整備します。

※構想中の情報のため、実際と異なる場合があります。

2年次以降は 全国の連携地域で 学ぶことができる！

キャリアイメージ

4年間「理論」・「対話」・「実践」を往還するプロセスを通じて培った課題解決及び社会変革を実行する力を活かして地域の課題や企業の課題に積極的にチャレンジをしていく人材です！

想定する業種

自治体職員 まちづくり関係 エネルギー関係 地域商社 観光関係 地域の出版社 デザイン会社 等

全国各地の地域課題・社会課題に 挑みながら学ぶボンディングシップ

※開学前にボンディングシップ実証実験において実施したテーマを掲載しています。

CASE	Theme
1 HIDA	行政×企画 飛騨 「日本中の人が飛騨に関わる仕組み作り」 キャンパス創設による飛騨市ファンクラブ 活性化プロジェクト
2 GIFU	林業×教育 岐阜 「木と触れ合う子ども向けの学び場づくり」木材を 活用した子ども向けワークショップ企画プロジェクト
3 NOTO	地域企業×商品開発 能登 「地域に根づく中小企業の新規事業に挑む」地域資源を 活用した新たな特産品開発・マーケティングプロジェクト
4 HOKKAIDO	スポーツ×新規事業 北海道 「マイナススポーツを支える新たな仕組みを作る」プロスポーツ チームが手掛けるマイナススポーツ活性化プロジェクト
5 HOKKAIDO	農業×販路開拓 北海道 「一次産業の新たな販路開拓に挑む」生産者と都市部を つなぐ直売事業の企画・運営プロジェクト

ボンディングシップで得た成果・学び

【受講生の学び】

- ・企画や想像して終わりではなく、実際に行動することの大切さを実感できた
- ・企画立ち上げから運営までを実践した経験が自信につながった
- ・ボンディングシップをきっかけに、仕事の面白さに気づき、自分のやりたい仕事が見つかった

【受入れ側の成果】

- ・学生が立ち上げた企画が、地域や企業の変化や成長の起爆剤となった

※構想中の情報のため、実際と異なる場合があります。